

## 京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

### 1. 研究課題

「長い 19 世紀」におけるインド・中国の社会経済史の比較 -税制に注目して

A Comparative Study of the Socio-Economic History of India and China throughout the Long Nineteenth Century - with Special Reference to Tax Systems

### 2. 研究代表者氏名

小川 道大

Ogawa Michihiro

### 3. 研究期間

2020 年 4 月-2021 年 3 月(1 年目)

### 4. 研究目的

本研究の目的は「長い 19 世紀」におけるインドと中国の社会経済史を比較する注目点を見出すことである。近年のアジア経済の興隆の中で、アジアからの世界史再考が近年の歴史学の重要な課題となっている。特に欧米による植民地支配が展開された 18 世紀後半から 20 世紀前半にかけての「長い 19 世紀」に関して、アジア間貿易研究の進展などによりアジア史の見直しが進められている。アジアの大国であるインドと中国の「長い 19 世紀」における社会経済史研究も個別にこの文脈で進展してきたが、日本における両国の歴史研究は交流が極めて少なく、アジアという枠組みで歴史を論じる研究視座も整っていないのが現状である。本研究が目指す「長い 19 世紀」における中印史の比較は、欧米からのアジア史観に捉われずに、アジア史が内包する多様性やアジアという枠組み自体を日本から再考するものであり、アジアからの世界史再考の一助となる。比較に当たっては、国家を支えた税制に注目し、前年度よりもより具体的に中印の史的比較を行う。

This project aims to compare key points of Chinese and Indian socio-economic history throughout “the long nineteenth century”. Due to the recent growth of Asian economies, it has now become important to review global history from Asian perspectives - especially the way in which intra-Asian trade and other characteristics developed throughout the period of colonial rule by Europe during “the long nineteenth century”. Although much research has been carried out on the socio-economic history of China and India, which are both great Asian powers, the study of Asian history as a whole during “the long nineteenth

century” has yet to be established in Japan because of the limited amount of academic communication between scholars and historians who study each of these countries. By comparing Chinese and Indian history during the nineteenth century, Japanese scholars in this project reconsider the diversity of Asian history within a purely Asian framework, independent from Western views of Asian History. This project compares Chinese and Indian history by focusing specifically on the tax systems which not only supported both states financially, but greatly affected socio-economic relations in both states.

## 5. 研究成果の概要

オンラインの開催ではあったが、2回の研究会を通じて、中国史研究者・インド史研究者とも相互の歴史に対する理解をいっそう深めることができた。中印の共通項として巨大国家であることのみならず、清朝やムガル帝国、イギリス東インド会社といった外来の勢力の統治を受けたものの、既存の制度も根強く残りハイブリッドな国家であったことなどがあらためて確認された。一方で、人口変動など、中印に大きな違いがあることも確認できた。また、中印の比較史にふさわしいテーマは、土地制度・労働力・航運・財政・金融・商業に絞り込むことができた。これらのテーマについてはそれぞれの担当者によって比較の作業が進展しており、中印の共通点と相違点も明らかになりつつある。本年の社会経済史学会大会、来年の世界経済史会議においてその成果を報告する準備もととのった。

## 6. 共同研究会に関連した主な公表実績

なし

## 7. 研究成果公表計画および今後の展開等

2021年5月の社会経済史学会大会、2022年7月の世界経済史会議のパネルにおいてその成果を報告する予定である。